

第7回一関市総合教育会議

日 時 平成30年6月29日（金）13時30分～15時20分
場 所 一関市立千厩小学校

次 第

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 懇談
人口減少社会における学校教育・地域の教育について
- 4 授業見学
- 5 閉会

一関市教育に関する大綱

【基本目標】

学びを広げ、人と地域が共に育ち、一関の未来を創る

【基本方針】

- 1 生涯にわたる学びを応援し、まちづくりを担い、活躍する人づくりを進める
(縦軸の人づくり)
- 2 学校・家庭・地域の連携を深め、心豊かにたくましく生きる人づくりを進める
(横軸の人づくり)
- 3 郷土の歴史と文化を誇りにし、未来を創造する人づくりを進める
(時間軸の人づくり)

第7回一関市総合教育会議 出席者名簿

職		氏名	備考
【構成員】			
市長		勝部 修	
教育委員会	教育長	小菅 正晴	
	委員	千葉 和夫	
	委員	小野寺 眞澄	
	委員	佐藤 一伯	
	委員	伊藤 一志	
【事務局等】			
市長公室	市長公室長	石川 隆明	
	政策企画課長	佐藤 正幸	
	政策企画課主幹	佐藤 マチ子	
	政策企画課 政策企画係長	宍戸 勝幸	
教育部	教育部長	千葉 敏紀	
	一関図書館長	千葉 秀一	
	教育部次長 兼学校教育課長	小山 祐二	
	教育部次長 兼文化財課長 兼骨寺荘園室長	佐藤 武生	
	一関市博物館次長	千葉 浩	
	教育総務課長	中田 善久	
	教育総務課長補佐 兼庶務係長	千葉 由紀	

一関市人口ビジョンの概要

人口ビジョンの位置付けと対象期間

本市の人口の現状と将来の姿を示し、人口問題に関する基本認識の共有を図り、取り組むべき課題と将来の方向を示す長期的な人口ビジョンとして策定します。

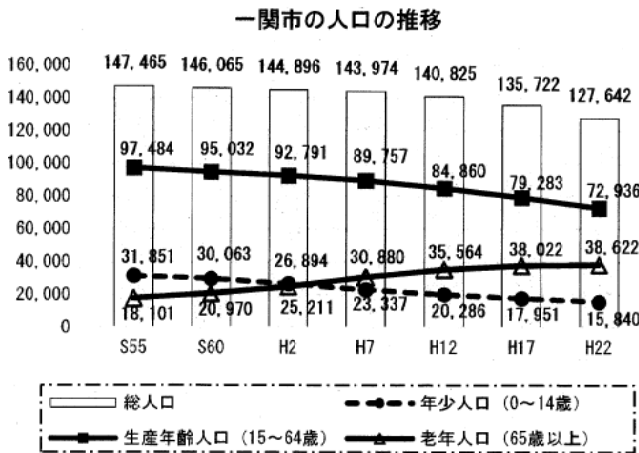
本ビジョンの対象期間は、平成52(2040)年までを基本とします。

1 人口の現状分析

人口動向分析

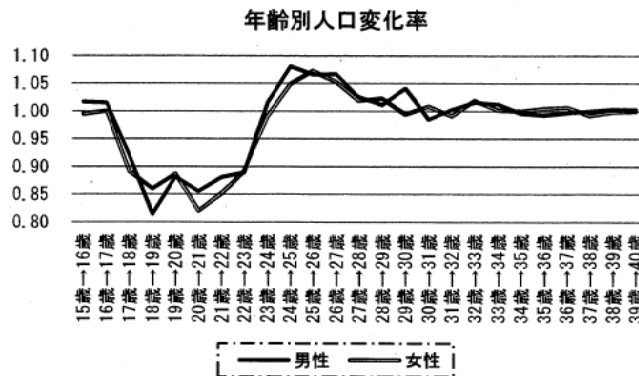
■総人口の減少と高齢化の進行

本市の総人口は減少を続けています。平成7(1995)年には65歳以上の人口(老年人口)が15歳未満の人口(年少人口)を上回り、老年人口が総人口に占める割合は増加し続けています。



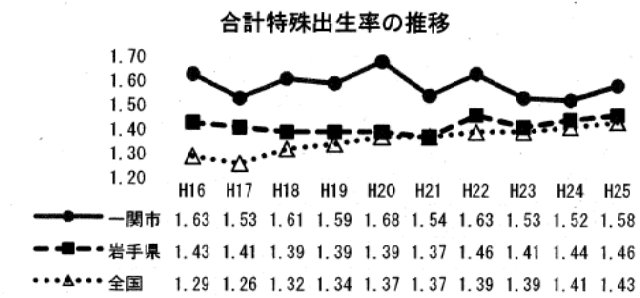
■20歳前後の年齢層の流出

年齢別の人口変化率は、17歳→18歳から22歳→23歳にかけて減少傾向にあります。なお、23歳→24歳以降増加に転じますが、20歳前後の減少に見合うほどの増加はみられません。



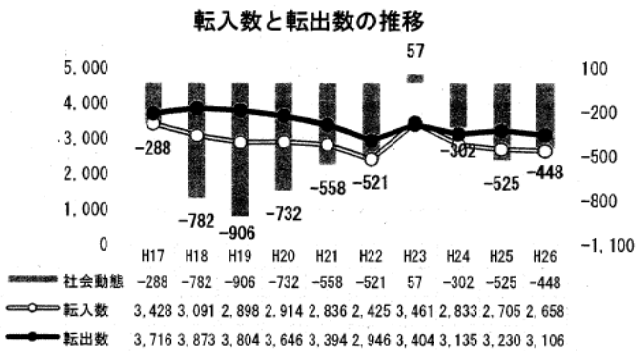
■合計特殊出生率は全国平均を上回っているが、低下傾向

合計特殊出生率(一人の女性が一生の間に産む子どもの数)は、全国や岩手県を上回って推移していますが、低下傾向にあります。



■宮城県、東京圏及び県内への転出超過

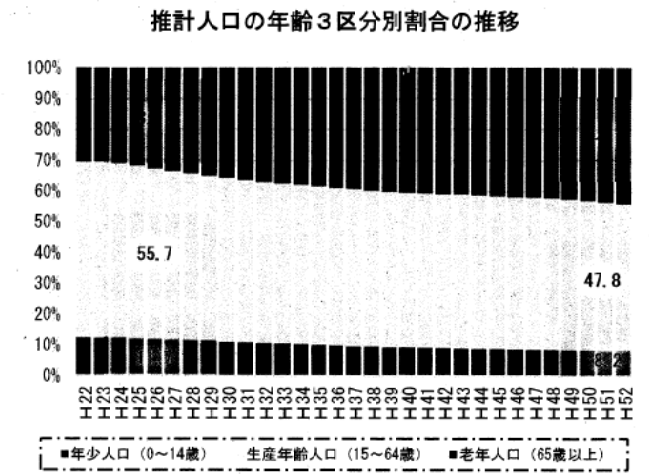
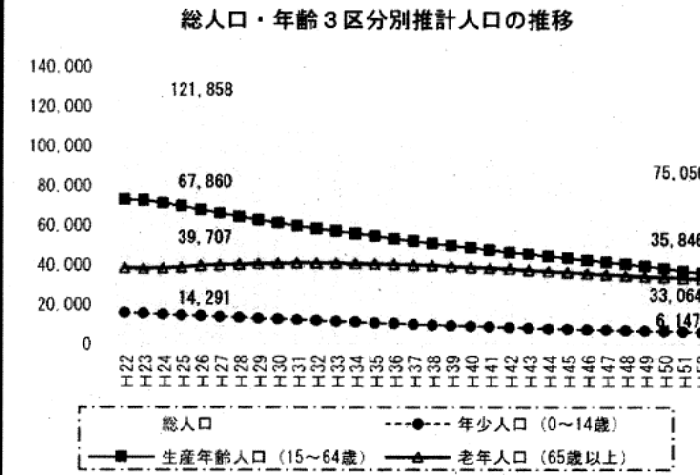
年によって変動はありますが、ほとんどの年で転出超過となっており、地域別には宮城県、東京圏、県内の順に多くなっています。



転入転出の状況 (H26)

	転入前都道府県	転出先都道府県	差
宮城県	576	778	▲203
東京圏	535	682	▲147
埼玉県	110	130	▲20
千葉県	87	94	▲7
東京都	217	287	▲70
神奈川県	121	171	▲50
岩手県	925	1,008	▲83

将来人口の推計



■人口は将来的にも減少する見込み

出生、死亡、移動の状況が現状のまま推移すると仮定して推計した場合、本市の総人口は平成52(2040)年に7万5千人程度まで減少する見込みです。

■総人口に占める高齢者の割合が増加

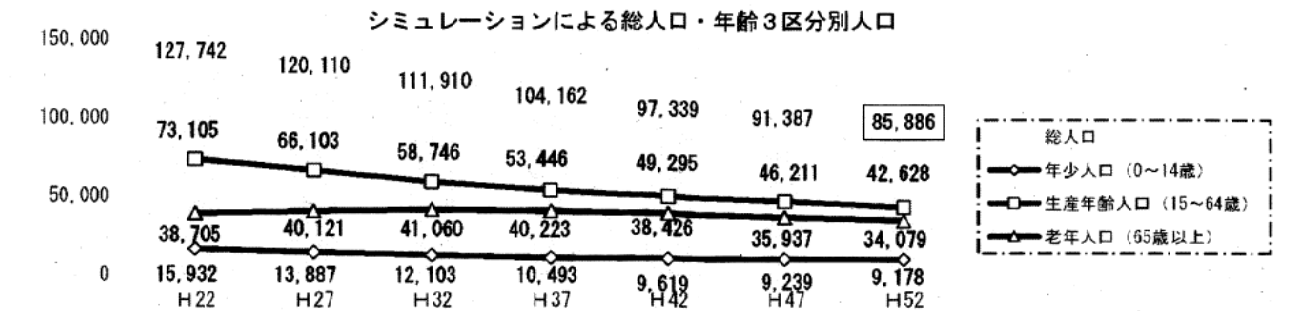
総人口に占める生産年齢人口及び年少人口の割合が減少する一方、老年人口の割合が増加し、平成52(2040)年には総人口の44.1%まで上昇します。

人口の将来展望

■「人口の将来展望」のためのシミュレーション

4つの柱での取組により以下の条件が実現するものと仮定し、将来人口のシミュレーションを行いました。

- ▶合計特殊出生率が平成42(2030)年にかけて国民の希望出生率1.8まで、平成52(2040)年にかけて人口置換水準である2.07まで、平成62(2050)年にかけて市民の希望出生率2.12まで上昇する
- ▶社会減(▲448人:平成26年の実数)が段階的に解消され、平成42(2030)年にゼロとなり、以降は維持する

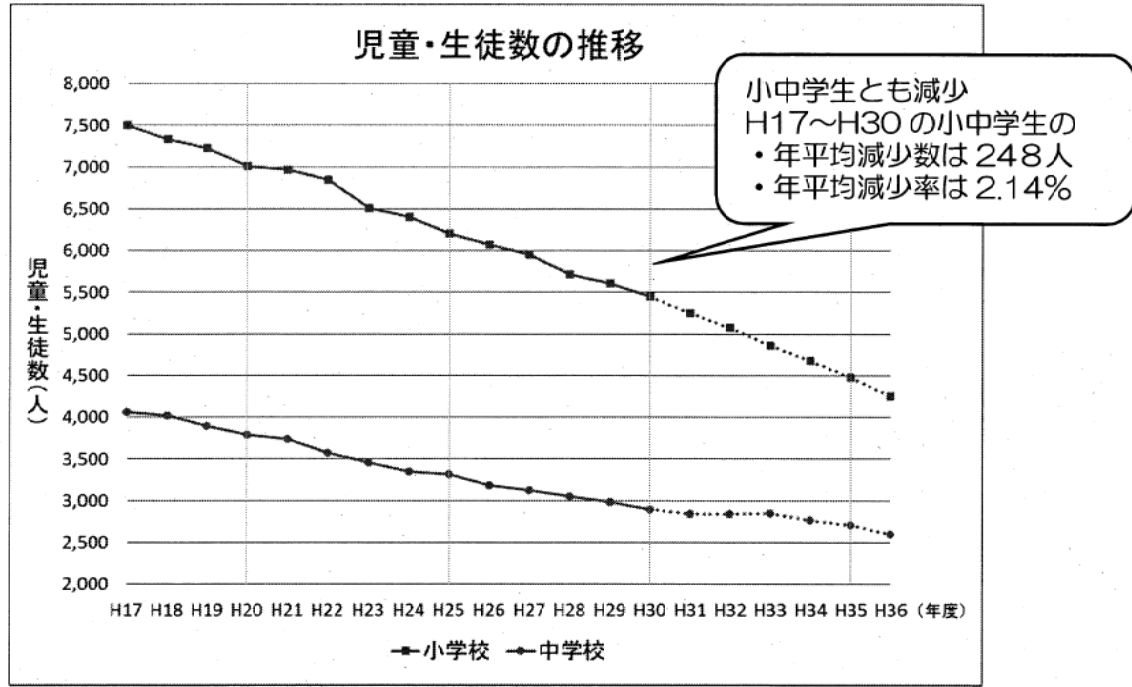


■一関市人口ビジョンにおける人口の将来展望

シミュレーション結果を踏まえて、人口の将来展望を以下のとおりとします。

人口減少に歯止めをかけ、長期的な人口の安定も視野に入れて、平成52年(2040)に8万6千人程度の人口を確保します。

○H17 から H36 までの児童・生徒数の推移

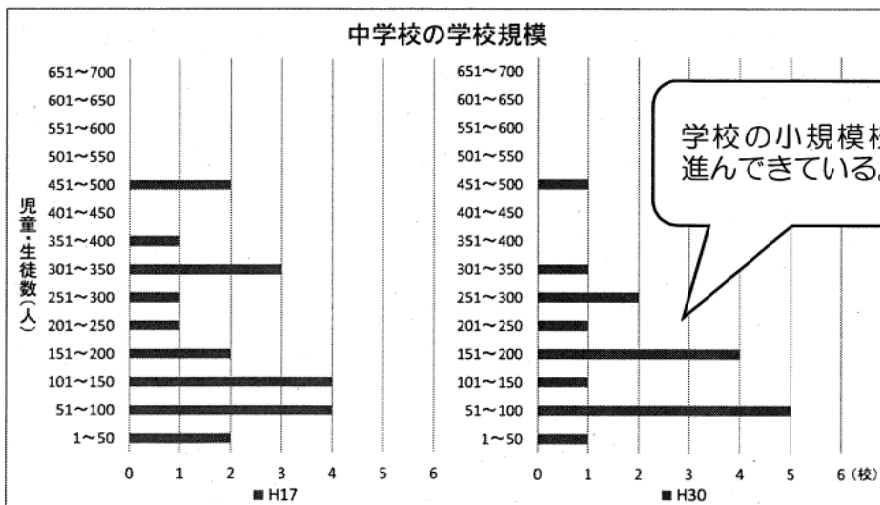
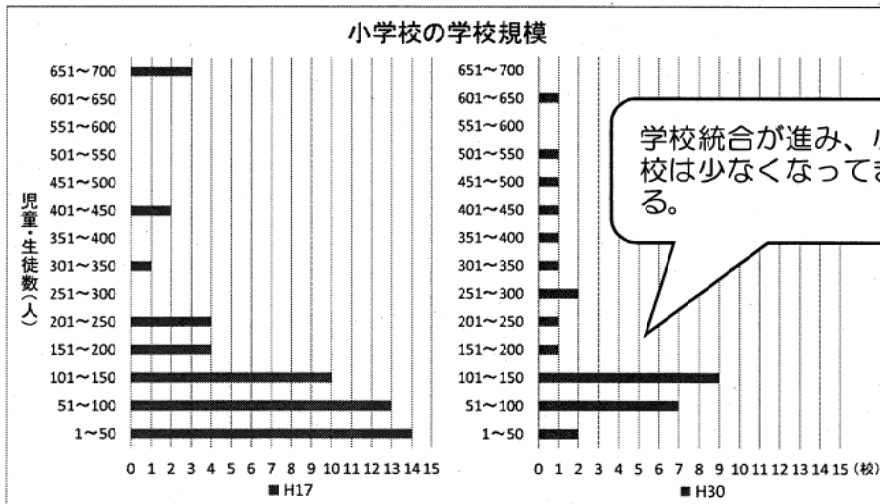


		H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
児童・生徒数	小学校	7,503	7,334	7,222	7,013	6,966	6,856	6,512	6,400	6,208	6,074	5,960	5,716	5,605	5,447	5,245	5,070	4,858	4,674	4,476	4,252
	中学校	4,067	4,021	3,901	3,789	3,737	3,572	3,459	3,347	3,315	3,185	3,128	3,048	2,986	2,898	2,842	2,840	2,848	2,768	2,708	2,599
学校数	小学校	51	47	47	47	41	40	40	40	36	34	33	33	33	28	28	28	28	23	23	23
	中学校	20	20	20	19	19	19	19	19	19	18	17	17	17	16	16	16	16	16	16	16

出典：学校基本調査（毎年 5 月 1 日現在）、H31 以降は推計

○学校規模

児童生徒数 (人)	小学校		中学校	
	H17	H30	H17	H30
651~700	3	0	0	0
601~650	0	1	0	0
551~600	0	0	0	0
501~550	0	1	0	0
451~500	0	1	2	1
401~450	2	1	0	0
351~400	0	1	1	0
301~350	1	1	3	1
251~300	0	2	1	2
201~250	4	1	1	1
151~200	4	1	2	4
101~150	10	9	4	1
51~100	13	7	4	5
1~50	14	2	2	1
計	51	28	20	16

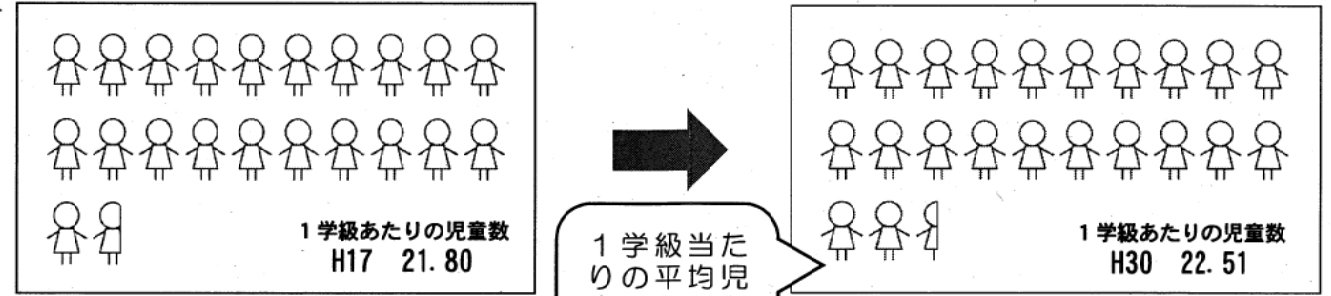


○1 学級あたりの児童・生徒数（特別支援学級を除く。）

		H17	H30	1年ごとの減少数の平均
児童・生徒数	小学校	7,411	5,222	168.38
	中学校	4,029	2,803	94.31
	計	11,440	8,025	262.69
学級数 (通常)	小学校	340	232	
	中学校	128	99	
1 学級あたりの児童・生徒数 (通常)	小学校	21.80	22.51	
	中学校	31.48	28.31	

平成 30 年 6 月 29 日 (金)
第 7 回総合教育会議 資料
教育部 教育総務課

・小学校児童数の推移イメージ



・中学校生徒数の推移イメージ



○地域別児童・生徒数

	一関	花泉	大東	千厩	東山	室根	川崎	藤沢	全体
H17	5,404	1,252	1,388	1,116	723	496	371	820	11,570
H30	4,362	945	866	769	423	289	205	486	8,345
減少数	1,042	307	522	347	300	207	166	334	3,225
減少率 (%)	19.28	24.52	37.61	31.09	41.49	41.73	44.74	40.73	27.87

